

再評価結果（平成26年度事業継続箇所）

担当課： 道路局高速道路課

担当課長名： 中神 陽一

事業名	都市高速道路事業 広島高速5号線		事業区分	指定都市高速道路	事業主体	広島高速道路公社
起終点	自) 広島市東区温品町 至) 広島市東区二葉の里三丁目			延長	4.0km	
事業概要						
広島高速5号線は、広島市の都心部と広島県東部地区及び広島空港との高速性・定時性の向上や、一般道路の交通混雑の緩和、広島駅周辺地域の開発促進などの役割を担う路線であり、都市高速道路事業（有料道路）と地方道事業（公共事業）の合併施行により事業を実施している。						
H12年度事業化		H10年度都市計画決定		H12年度用地着手		H18年度工事着手
全体事業費		861億円	事業進捗率		67%	供用済延長 0km
計画交通量		約8,000台/日～約12,400台/日				
費用対効果 分析結果	B/C	総費用	(残事業)/(事業全体)	総便益	(残事業)/(事業全体)	基準年
	(事業全体) 1.1 (残事業) 3.4	事業費： 維持管理費：	375/1,205億円 312/1,142億円 63/ 63億円	走行時間短縮便益： 走行経費減少便益： 交通事故減少便益：	1,286/1,286億円 1,074/1,074億円 155/ 155億円 57/ 57億円	平成25年
感度分析の結果						
【残事業】交通量： B/C=3.3～3.5（交通量 ±10%） 事業費： B/C=3.2～3.7（事業費 ±10%） 事業期間： B/C=3.3～3.6（事業期間±20%）						
事業の効果等						
<ul style="list-style-type: none"> 広島空港や県東部地域から広島市都心部へのアクセス性の向上 地域交流圏域の拡大や、市中心部へのアクセス性向上に伴う都市の機能・拠点性が強化 						
関係する地方公共団体等の意見						
<ul style="list-style-type: none"> 広島県や広島市から国へ整備促進の要望がなされている。 						
事業評価監視委員会の意見						
<ul style="list-style-type: none"> 事業継続を妥当と認める。事業者は、引き続き地域の方々との理解と協力を得るために鋭意努力するとともに、事業効果の早期発現をめざすこと。 						
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等						
<ul style="list-style-type: none"> H22年4月までに、高速2号線及び高速3号線の一部区間（仁保JCT～吉島）の供用のほか、広島駅周辺で二葉の里土地区画整理事業等の開発が進められている。 						
事業の進捗状況、残事業の内容等						
<ul style="list-style-type: none"> 用地進捗率99%、事業進捗率67%、一部工事着手 						
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等						
<ul style="list-style-type: none"> 今後は、平成29年度の完成目標に向け事業の推進に取り組んでいく。 						
施設の構造や工法の変更等						
<ul style="list-style-type: none"> 橋梁下部工において、鋼管ソイルセメント杭の採用等によりコスト縮減を図っている。 						
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	<ul style="list-style-type: none"> 事業の必要性、重要性は変わらないため事業を継続する。 					
事業概要図						
<p>図は、広島駅北から中山、二葉の里、山陽自動車道を経て広島空港までのルートを示しています。主要なルートは、一般県道温品二葉の里線と高速5号線(東部線)です。また、中山から山陽自動車道へ接続し、山陽自動車道から広島空港へ向かうルートも示されています。高速1号線と高速2号線も図中に描かれています。</p>						

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。